

高速インターネット基盤未整備地域住民の 生活環境と意識 (3)

米 田 公 則

1. はじめに
2. 住民調査の概要
3. 調査対象地域の概況
4. 対象地区の現状と課題
5. アンケート調査に基づく調査対象三地区の比較（以上、前回まで）

6. 設楽町田口地区住民の意識

前章において、三地区の地域特性に基づく比較を行ってきた。この章では、個別地区の住民意識調査をもとに、より詳細に検討していきたい。

(1) インターネット、パソコン利用状況の特徴

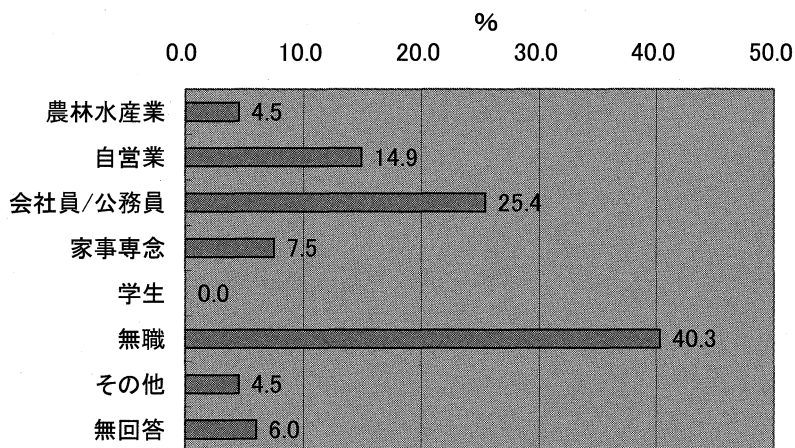
すでに触れたが、設楽町田口地区は、設楽町の中心部に位置し、一部の地域ではあるが ADSL を利用することができ、インターネット利用環境としてはもっとも整備されている地区である。本アンケート回答者を年齢層別に見ると 70 歳代が 50%、60 歳代とあわせると 68% を占め、設楽町全体の高齢化と同様、回答者が高齢であり、これが回答全体に影響を与えることが伺える。

図表 6-1 の職業構成を見ると、回答者に高齢者が多いため、職業構成も無職のものが多くなっているが、それ以外では、会社員・公務員が最も多く 25.4% を占め、次いで自営業の 14.9% となっている。

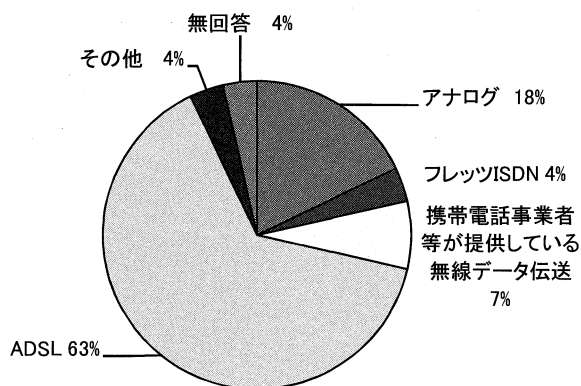
田口地区は三地区の比較でも明らかにしたように、パソコン所有状況、インターネット接続状況共に 76% と、高い比率を占めている。その内容を見ると ADSL が 63% を占め、超高速インターネットは利用できないが、一定のブロードバンド環境を有し、それを利用していることがわかる。（図表 6-2）

これに対して、パソコン、インターネットを利用しない人たちはどのような理由をあげているのか見てみよう。パソコンを利用しない理由を見ると、利用しない理由の第一としては「使い方がわからない」（難しい）48.1%、次いで「必要がない」と思っている」44.4% が上位を占め、その必要性、利用方法がわからない人が一定数いることがわかる。これは、回答者に高齢者の比率が高いことが理由として考えられる。（図表 6-3）

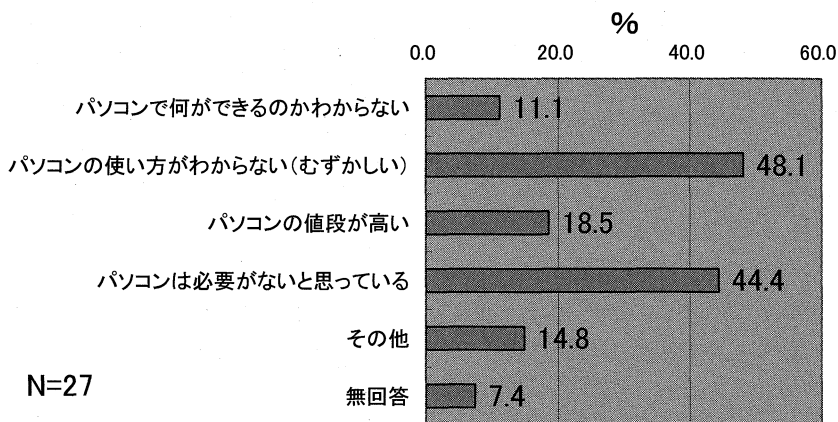
パソコンを使ったインターネットを利用しない理由として、通信速度が遅いというブロードバンド利用環境の悪さを理由に挙げているものは、わずか 8.3% であるのに対して、「インターネットは必要がないと思う」33.3%、「インターネットで何ができるのかわからない」19.4% と上位を占め、利用環境の悪さより、インターネットそのものに



図表 6-1 職業



図表 6-2 利用しているインターネットの接続回線 (接続済み)



図表 6-3 パソコンを利用しない理由

積極的な利用価値を見いだせていないことがわかる。(図表 6-4)

これは、今後のインターネットの利用予定を見ても明らかである。50%のものが「当面の間は利用するつもりはない」と回答し、「通信速度がもっと速くなれば利用したい」13.9%、「いますぐにでも利用したい」2.8%を、大きく引き離している。(図表 6-5)

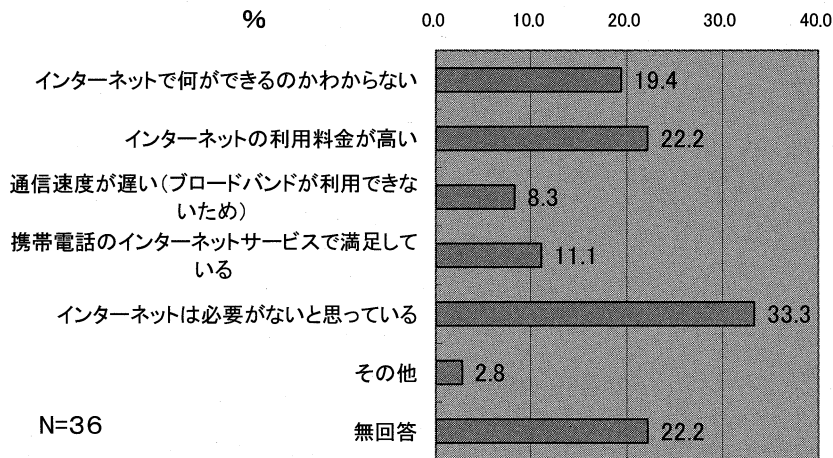
設楽町田口地区では、すでにインターネットを利用したいと考えていた人はほとんど利用し、利用していない人たちは、高齢者を中心とした利用に関心を持っていない人たちであることが分かる。

(2) ブロードバンドへの認知度、期待度

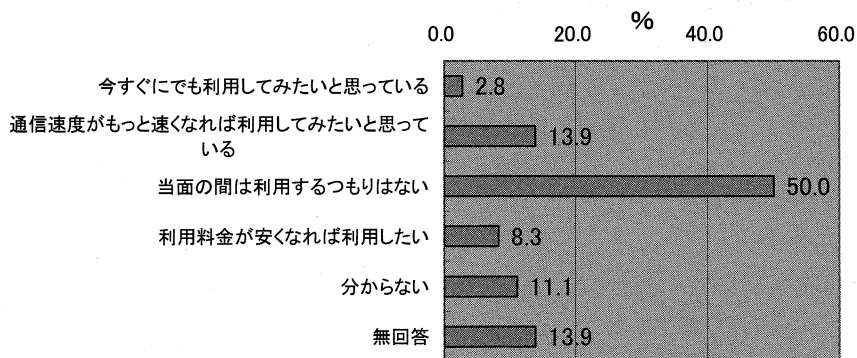
図表 6-6 はブロードバンドという用語を知っていますかという問いに対する回答であるが、「よく知っている」9%、「ある程度知っている」38%をあわせると 47%の人が知っていると答えている。しかし、他方で、「全く知らない」というものも 30%に上っている。

これを年代別に見ると、50 歳代までは、ある程度知っているものが多いが、60 歳代から 70 歳代になると、全く知らないというものが増える。全体と比較するとやはり、認知度は年齢と関連していることが分かる。(図表 6-7)

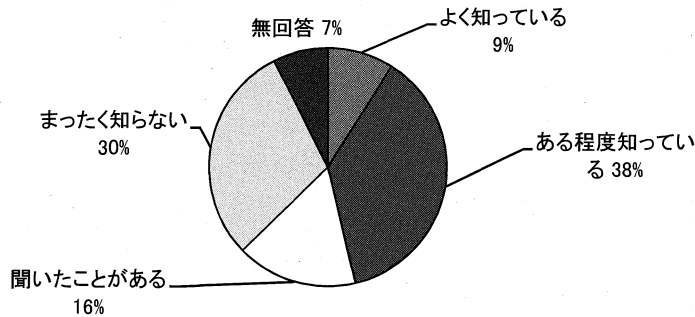
それに対し、設楽町内で、ブロードバンドが利



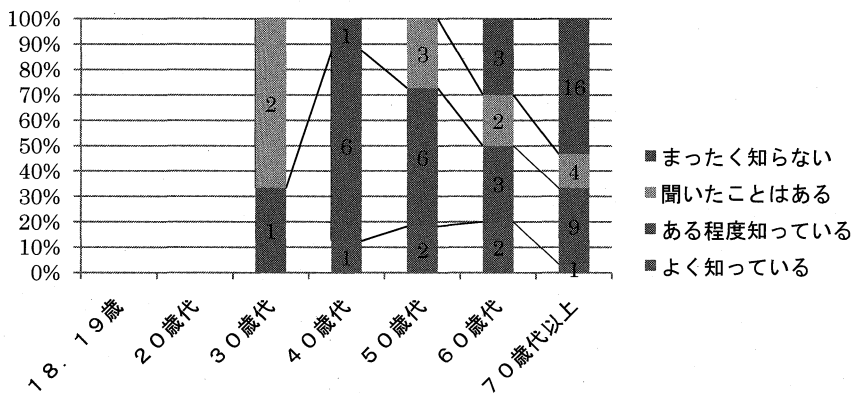
図表 6-4 パソコンを使ったインターネットを利用しない理由



図表 6-5 今後のインターネットの利用予定 (未利用者のみ)



図表 6-6 ブロードバンドの認知度



図表 6-7 年代別 BB の認知度

用できない地域があることへの認知度は、過半数の 55% のものが「知らない」と答え、設楽町を全域で見た場合、利用できないことを十分認識しない人が多いことがわかる。(図表 6-8)

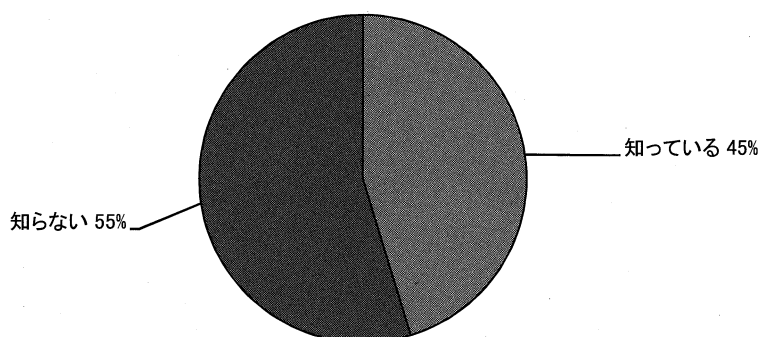
図表 6-9 は、ブロードバンドが利用できないことへの評価であるが、たいへん不便 36%、不便 31%、をあわせると 67% が不便であると考えており、他方、全く不便だと思わないというものは 0% で、今やブロードバンドが不可欠な情報基盤であるという認識を持っているということもできよう。

図表 6-10 は設楽町全域で、都市部と同じようにブロードバンドが利用できることが必要かという問いに対し、「非常に必要である」というものが過半数の 52% に上り、「必要だと思うことがある」

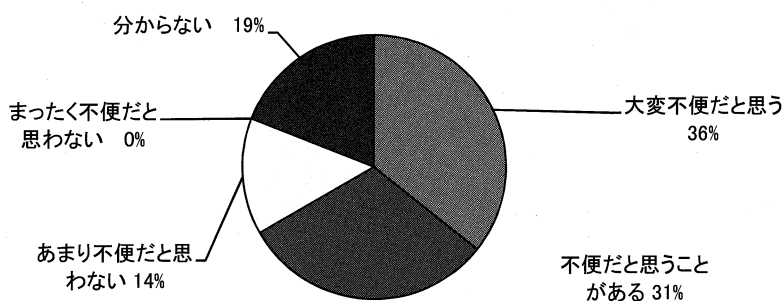
(29%) と合わせると、81% のものが、ブロードバンドが必要であるという認識を持っている。先ほどの環境未整備状況に対する認知 (45%) と併せて考えると、半数前後のものが環境未整備状況を認知し、その人たちが必要性を強く意識していると考えられる。

図表 6-11 のブロードバンド利用の意向に関する設問では、「すでに利用中」21%、「利用したい」17%、合計 38% に上る。料金などにより検討というものが 29% いる。これに対して、必要ないので利用しないというものが 21% いた。

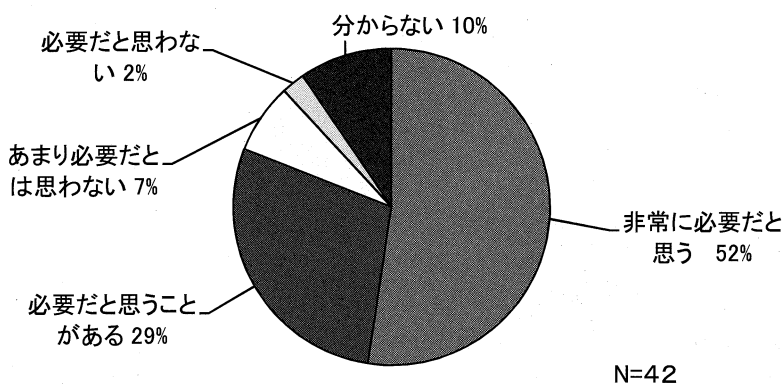
図表 6-12 は、料金により検討したいと回答したものに対して、どの程度の料金ならば利用したいという設問であったが、月々 4000 円程度との回答のみで (12 人)、それ以上の料金を回答した



図表 6-8 町内でブロードバンドが利用できないことへの理解度



図表 6-9 ブロードバンドが利用できないことへの評価

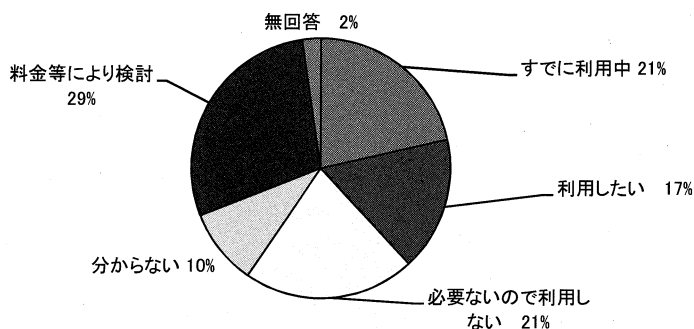


図表 6-10 ブロードバンドの必要性

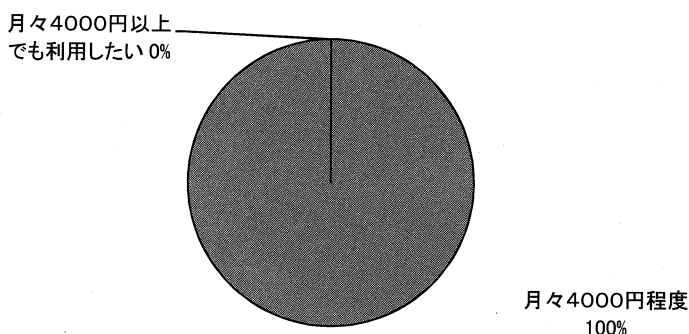
ものはいなかった。これは設問に都市部での利用料金が4000円から9000円程度との注意書きを加えていたために都市部並みの料金を希望したものと考えられる。

採算性の面でブロードバンドの整備が困難な場合、行政によるブロードバンドの整備が必要かと

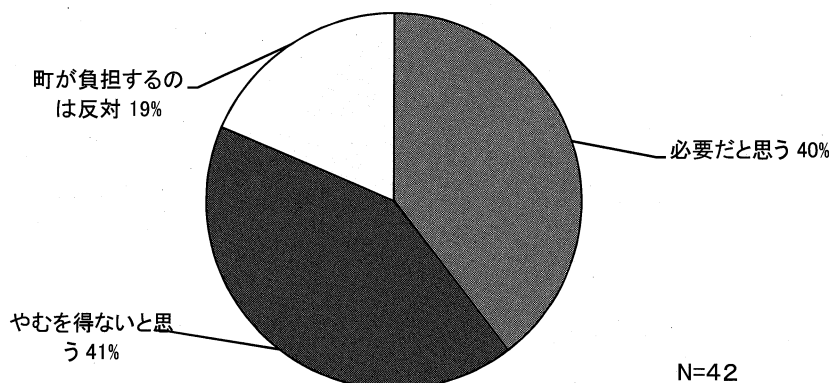
いう設問に対して、「必要だと思う」40%、「やむを得ないと思う」41%、と行政によるブロードバンドの整備に対して、81%のものが理解を示している。それだけ、ブロードバンド環境の整備が重要という意識を持っているものと考えられる。(図表 6-13)



図表 6-11 ブロードバンドの利用意向



図表 6-12 利用したいと思う料金



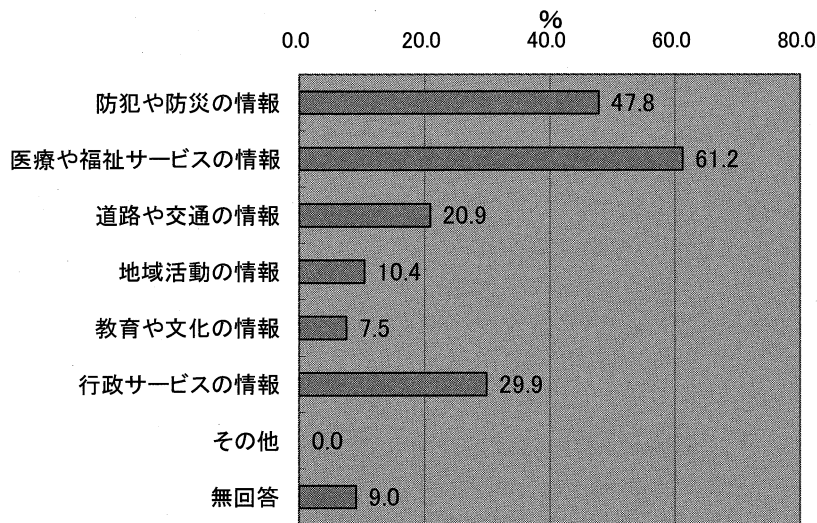
図表 6-13 行政によるブロードバンド整備について

(3) 設楽町における情報化の取組みについての考え

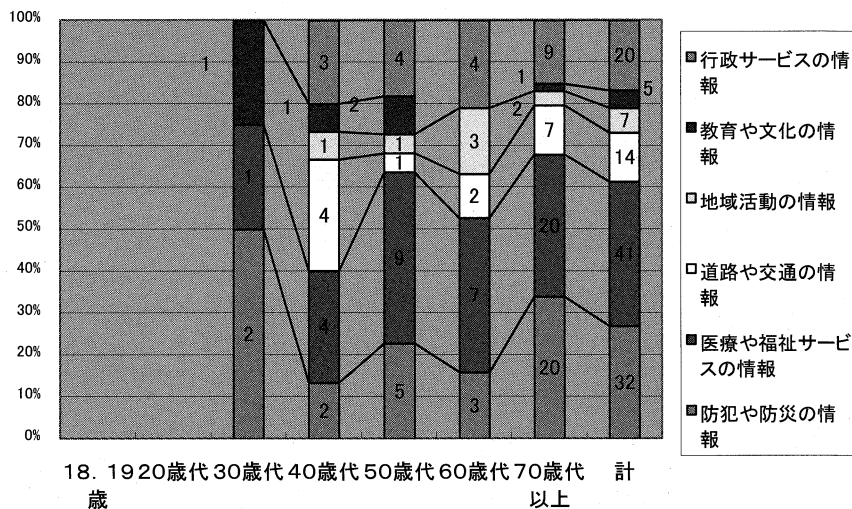
それでは、設楽町で生活していくにあたり、田口地区の住民はどのような情報の充実を希望し、どのようなサービスの利用を希望しているのか

ろうか。

図表 6-14 の今後充実させてほしい情報内容を見ると、「医療や福祉サービスの情報」が61.2%で最も高く、次いで「防犯や防災の情報」が47.8%となっている。



図表 6-14 今後充実させてほしい情報内容



図表 6-15 年齢別充実させたい情報

充実されて欲しい情報を年齢別に見ると（図表 6-15）、年代により大きな差異はなく、特に医療・福祉サービスの情報は、どの年代でも充実させて欲しいものと位置づけられている。細かく見ると 60 歳代、70 歳代で、防犯・防災の情報への関心が若干高まっていることがわかる。

設楽町のような高齢化が進む山間部の町では、

やはり医療、福祉の問題、そして、防犯、防災の課題が常に意識されていることが分かる。

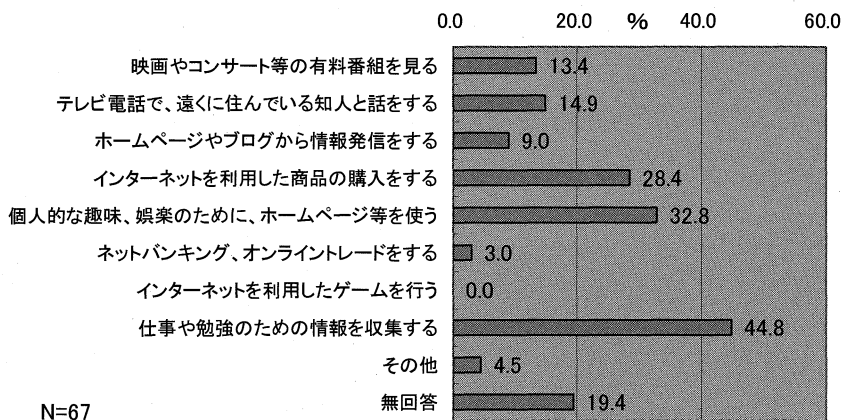
それでは、インターネットを利用したサービスとしてどのようなものを期待しているのでしょうか。全体としてみるとインターネットで利用したいサービスとして、最も多いのが「仕事や勉強のための情報の収集」で 44.8% のものが利用したい

と回答している。(図表 6-15) ついで、「個人的な趣味のために利用する」というものが 32.8%、「商品の購入に利用」というものが 28.4%と続いている。

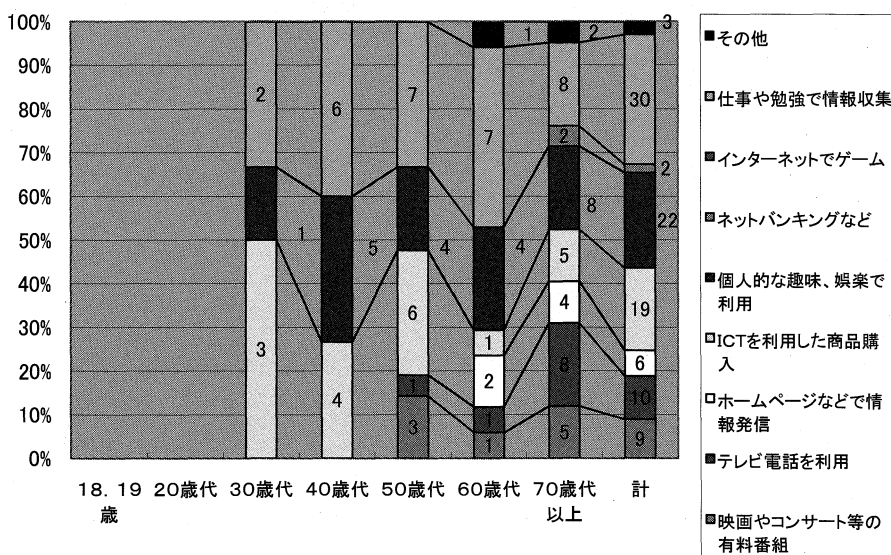
利用したいサービスを年代別で見ると(図表 6-16)、30 歳代、40 歳代でインターネットを利用した商品購入などに関心が強く、個々人の生活の質の向上に役だつ手段としてインターネットを捉えていることがわかる。これに対して、70 歳代で

は、テレビ電話への期待が高く、孤立しがちな高齢者が離れた家族などとの結びつきの手段として、インターネットの活用を見ていることは興味深い。

「ブロードバンドを活用して行政に提供してほしいサービス」(図表 6-17) についての設問に対して住民がもっとも期待しているものが、インターネットを活用した遠隔医療・在宅医療である(59.7%)。ついで、「防災情報の提供」と回答した



図表 6-16 インターネットで利用したいサービス



図表 6-17 年齢別インターネットで利用したいサービス

ものが41.8%となっている。これは年代別でも、あまり大きな差異がない。(図表6-18)つまり、それだけこの二つの課題が、地域住民にとって共通の課題として認識されているということができよう。

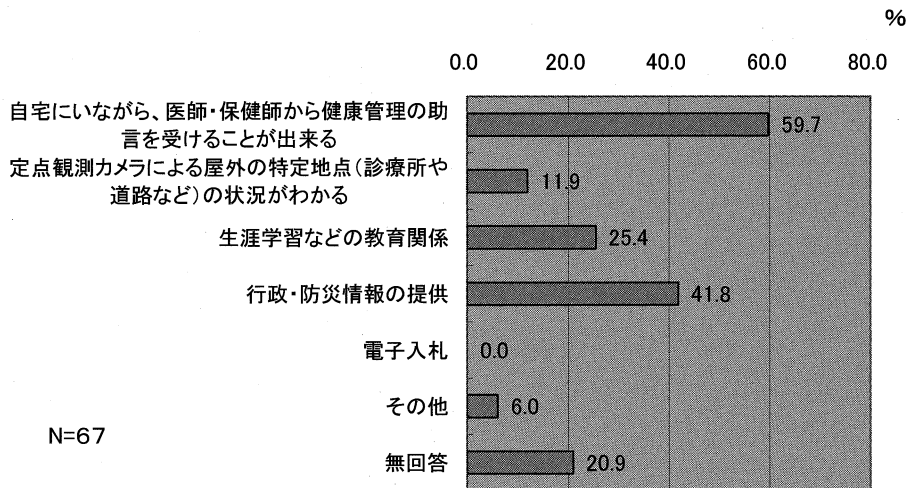
このように見ると、ブロードバンド環境の整備により行政に対して期待しているのは、ICTを活用した遠隔医療、在宅医療や防災情報の提供などであり、現在の住民サービスの質を向上させるこ

とである。

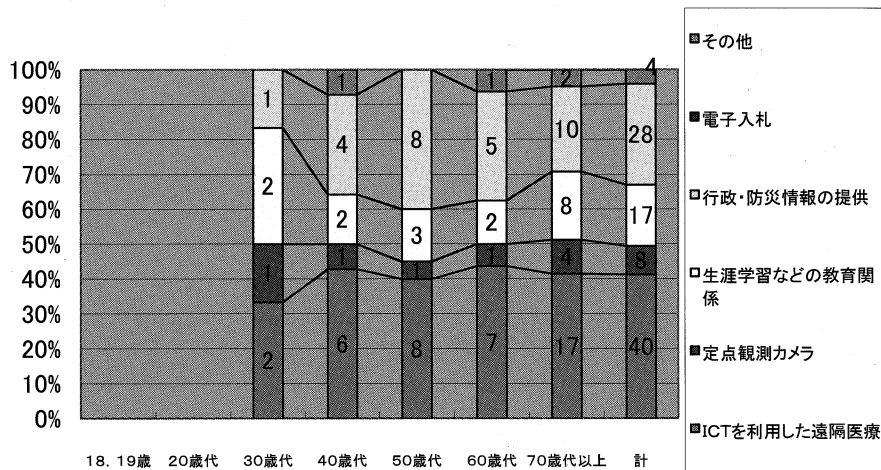
(4) まとめ

繰り返すが、設楽町の中で田口地区は最も環境の整備されている地域である。しかし、それだけ、それよりもっと環境の整備された(つまり、超高速インターネット環境が整備された)地域との格差を認識しているということができよう。

またブロードバンド環境の整備は、個々人の生



図表 6-18 ブロードバンドを利用し、行政に提供してほしいサービスについて



図表 6-19 年齢別行政に提供してほしいサービス

活の質を向上させることが期待され、住民もそれを期待していることは否定できないが、同時に地域の課題への対応策として、それが活用されることを期待している点に注目しなければならない。高齢化の進む中山間部にとって重要な課題は、医療、福祉の問題と安全・安心の課題である。この点は、広く認識されている課題であるからこそ、インターネット環境の整備、活用がこれらの課題への対応策の一つとして期待されているのである。今後は、単にインターネット環境の整備にとどまらず、それをいかに活用するかという視点が重要となろう。

こめだ・きみのり / 文化情報学部教授
E-mail : komeda@sugiyama-u.ac.jp